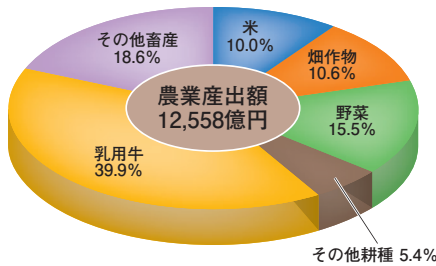


安全・安心で豊富な農水産資源を活かした食関連産業の集積

我が国最大の食料供給地域

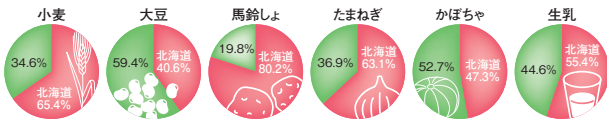
北海道は、寒冷で積雪期間が長いなど厳しい自然条件下にあります。明治以来、欧米の近代的な農業技術の導入や生産基盤の整備などにより、これらを克服し、稲作、畑作、酪農・畜産を中心に、大規模で専門的な農業を展開しています。2020(令和2)年の耕地面積は114万3千haで、全国の4分の1を占めています。また、1農業経営体当たりの経営耕地面積は30.2haと都府県平均の13.7倍となっています。販売農家戸数は、3万2千戸で、全国の3.1%ですが、主業農家率は71.7%と都府県の20.8%を大きく上回っています。2019(令和元)年農業産出額は12,558億円と全国の14.0%を占め、小麦、大豆、馬鈴しょ、たまねぎなどの畑作物、たまねぎ、かぼちゃ、スイートコーンなどの野菜、生乳など多くの農畜産物が全国1位の生産量となっており、北海道は我が国最大の食料供給地域として重要な役割を果たしています。

■農業産出額の構成(2019(令和元)年)



(出典：農林水産省「生産農業所得統計」)

■北海道が全国1位の主な農畜産物(生産量ベース)(2019(令和元)年)



(出典：農林水産省「作物統計」、「牛乳乳製品統計」)

全国1位の食料品出荷額

北海道は、我が国有数の食料品製造業の集積地であり、出荷額、事業所数はともに全国1位となっています。

■都道府県別・食料品製造業 (単位:億円)

順位	都道府県名	製品出荷額
1	北海道	22,107
2	埼玉県	20,285
3	愛知県	17,251
4	兵庫県	17,128
5	神奈川県	16,296

(出典:経済産業省「2019工業統計」)

■都道府県別・食料品製造業 (単位:事業所)

順位	都道府県名	事業所数
1	北海道	1,747
2	愛知県	1,132
3	静岡県	1,095
4	兵庫県	1,071
5	福岡県	871

(出典:経済産業省「2019工業統計」)

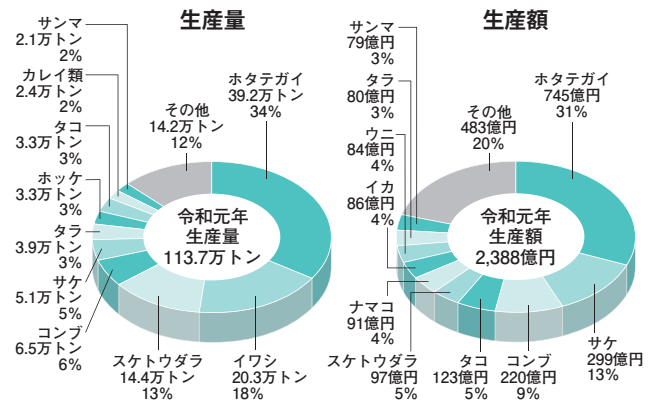
四方を海に囲まれた北海道の水産業

北海道は、太平洋、オホーツク海、日本海の3つの海に囲まれ、全国の12.6%にあたる4,446kmの海岸線を有し、北方に広く展開する大陸棚及び沖合には北見大和堆、武蔵堆など好漁場を擁しています。

2019(令和元)年の海面漁業・養殖業生産量(属地)※は113.7万トン、生産額は2,388億円です。魚種別にみると、生産量はホタテガイが最も多く、イワシ、スケトウダラが続きます。生産額もホタテガイが最も多く、サケ、コンブが続きます。

※属地とは、北海道に水揚げされた数量。

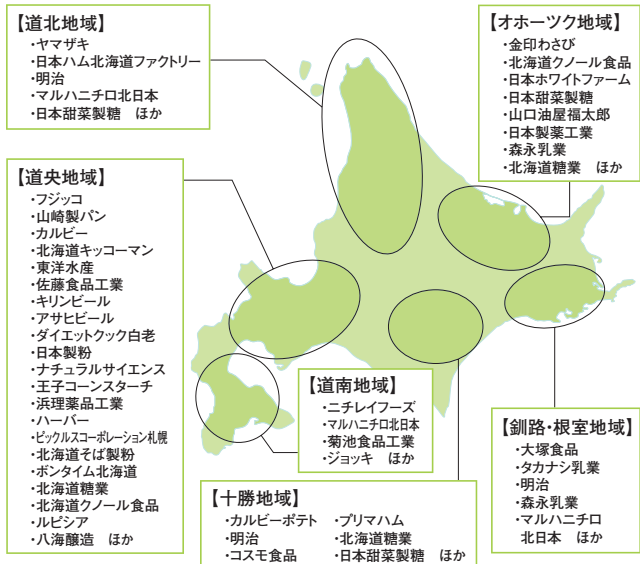
■魚種別構成比(2019(令和元)年:属地)



資料：北海道水産現勢(生体重量)(北海道水産林務部)

主な食品企業の立地状況

北海道は、我が国有数の食料品製造業の集積地でもあります。



全国初！北海道独自の食品機能性表示制度（愛称：ヘルシー Do(ドゥ)）

近年の健康に対する関心の高まりなどを背景に、健康食品などを購入する際に、希望に応じた商品を消費者が適切に選択できるよう、きめ細かな情報提供が求められています。2013（平成25）年4月にスタートした北海道食品機能性表示制度（ヘルシー Do）は、健康食品等に含まれている機能性成分に関して、「健康でいられる体づくりに関する科学的な研究」が行われた事実を北海道が認定するものです。制度を活用することで、北海道の認定マークをつけることができ、北海道の食が持つ「安全・安心・おいしい」というブランドに、「健康」という新たな付加価値を商品に加えることが可能となります。

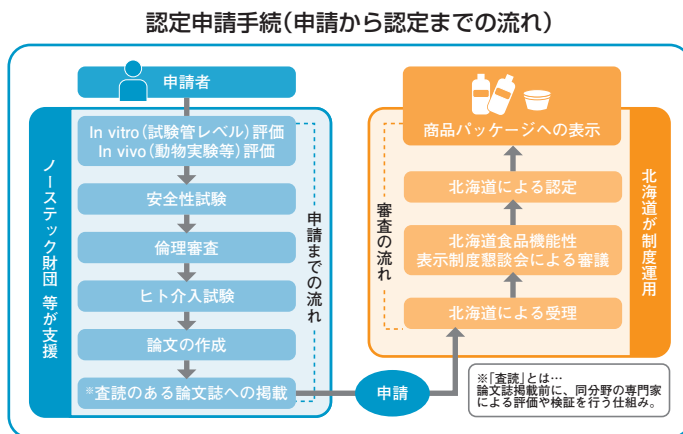
認定商品 第1回～第18回認定 累計69社 121件 131商品

2013(平成25)～2020(令和2)年度認定商品売上高 247億円



■制度の特徴・メリット

- ・全国初の自治体版食品機能性表示制度です。
- ・認定された商品は、北海道だけでなく全国で販売可能です。
- ・認定対象となる機能性素材は、単一成分だけでなく、エキスのような複合体（組成物）でも可能です。
- ・必ずしも申請者自らがヒト介入試験を実施しなくても、論文作成者の承諾があれば、大学やメーカー等の他者論文の使用が可能です。
- ・相手先ブランドでの製造・供給（OEM）は、道内企業同士のほか、道外企業から他社道内工場へのOEMも対象となります。



オール北海道で取り組む食クラスター活動

2010（平成22）年4月に産学官金のオール北海道で、北海道ならではの「食の総合産業化」を目指す食クラスター活動の全道的な推進母体として、食クラスター連携協議体が発足しました。協議体には、2,223（2022（令和4）年2月末時点）の機関が参画し、参画者の連携・協働のもと、これまで多くのプロジェクトが提案され、推進しています。

■主なプロジェクトの例

- ・ペポカボチャ（食用種子）のブランド化
- ・がごめ昆布等のブランド化
- ・北海道産ワイン産業の振興



北海道で広がる植物工場

北海道の涼やかな気候や日照、広大な土地を活かして、北海道で植物工場を始める動きが広がっています。こうした動きを進めるため、道庁ではさまざまな支援を行っていますので、ぜひご利用ください。

■事例

（株）Jファーム 苫小牧工場

出資者：（株）アド・ワン・ファーム、JFE エンジニアリング（株）

栽培作物：ベビーリーフ（1ha） トマト（1.5ha）

特徴：国内初の大規模トリジェネレーションシステム（ガスエンジンによる電力、熱、CO₂の活用）

（株）オリエンタルランド弟子屈農園

栽培作物：イチゴ（0.8ha）

特徴：温泉熱を活用したハウス内加温システムを導入



植物工場の取組への支援

- ・事業用地をお探しの際にお手伝いをします
- ・植物工場に関する技術的な相談に対応します（施設園芸高度化コンシェルジュ）
- ・要件により、工業団地等での植物工場建設への補助金が受けられます（設備投資額の4～10%）